

■ 本文

これも今は昔、絵仏師良秀〔①〕といふ〔②〕ありけり〔③〕。家の隣より火出で来て、風おしおほひてせめければ、逃げ出でて大路へ出でにけり〔④〕。人の書かする仏もおほし〔⑤〕けり。また、衣着ぬ妻子なども、さながら内にありけり。それも知らず、ただ逃げ出でたるをことにして、向かひのつらに立てり。

見れば、すでにわが家に移りて、けぶり・炎くゆりけるまで、おほかた、向かひのつらに立ちてながめければ、「あさまし〔⑥〕きこと。」とて、人ども来とぶらひけれど、騒がず。「いかに〔⑦〕。」と人言ひければ、向かひに立ちて、家の焼くるを見て、うちうなづき〔⑧〕て、ときどき笑ひけり。

「あはれ、しつるせうとくかな〔⑨〕。年ごろはわろく〔⑩〕書きけるものかな。」と言ふ時に、とぶらひに来たる者ども、「こはいかに、かくては立ちたまへるぞ。あさましきことかな。ものつきたまへるか〔⑪〕。」と言ひければ、「なんでふ〔⑫〕ものつくべきぞ。年ごろ不動尊の火炎をあしく書きけるなり〔⑬〕。今見れば、かうこそ燃えけれ〔⑭〕と、心得つるなり。これこそせうとくよ。この道を立てて世にあらむ〔⑮〕には、仏だによく書きたてまつら〔⑯〕ば、百千の家もいできなん〔⑰〕。わたうたちこそ、させる能もおはせ〔⑱〕ねば、ものをも惜しみたまへ。」と言ひて、あざ笑ひてこそ立てり〔⑲〕けれ。

そののちにや、良秀がよぢり不動〔⑳〕とて、今に人々愛で合へり。

■ 設問（全24問）

- 『宇治拾遺物語』について、次の問いに答えなさい。
 - 成立した時代を次から選びなさい。〔 奈良時代 ・ 平安時代 ・ 鎌倉時代 ・ 江戸時代 〕
 - 『宇治拾遺物語』のように、民間に伝わる話や仏教にまつわる話などを集めた、この種の文学のジャンル名を漢字で答えなさい。
 - 本文冒頭の「これも今は昔」のように、この種の作品の話の多くが用いる、決まり文句の書き出しを答えなさい。
- 傍線〔①〕「絵仏師」とはどのような人物か。本文全体をふまえて、職業がわかるように現代語で説明しなさい。
- 傍線〔②〕「いふ」、傍線〔③〕「ありけり」について、次の問いに答えなさい。
 - この一文「絵仏師良秀といふありけり」を現代語訳しなさい。
 - 「いふ」の下には、本来あるべき語が省略されている。補うのに最も適切な一語を答えなさい。
- 傍線〔③〕「ありけり」の「けり」について、次の問いに答えなさい。
 - 文法的な意味（助動詞の種類）を答えなさい。
 - 終止形を答えなさい。

- (3) この「けり」と同じ意味・用法で使われている「けり」を、本文中の波線部以外からもう一つ抜き出さない。
5. 傍線〔④〕「出でにけり」を単語に分け、それぞれの品詞・活用形を説明したうえで、現代語訳しなさい。特に「に」が何かを明らかにすること。
6. 傍線〔⑤〕「おはし」について、次の問いに答えなさい。
- (1) 何という動詞が活用したものか、終止形（基本形）で答えなさい。
 - (2) 敬語の種類（尊敬・謙譲・丁寧のいずれか）を答えなさい。
 - (3) ここでは誰（何）に対する敬意か。動作の主体をふまえて答えなさい。
7. 傍線〔⑥〕「あさまし」の、ここでの意味として最も適切なものを次から選びなさい。
- ア あさはかだ イ 驚きあきれる ウ みすぼらしい エ 恥ずかしい
8. 傍線〔⑦〕「いかに」は、ここではどのような気持ちでかけられた言葉か。話しかけた人々の心情がわかるように、現代語で説明しなさい。
9. 傍線〔⑧〕「うちなづきて」の「うち」について、文法的に説明しなさい（品詞と働き）。
10. 良秀は、自分の家が焼けていくのを見て「ときどき笑ひけり」とある。良秀はなぜ笑ったのか。その理由を本文に即して説明しなさい。
11. 傍線〔⑨〕「しつるせうとくかな」について、次の問いに答えなさい。
- (1) 「しつる」を単語に分け、含まれる助動詞「つ」の意味と活用形を答えなさい。
 - (2) 「せうとく（所得）」とはここではどのような意味か、現代語で答えなさい。
 - (3) 文末の「かな」の意味（種類）と、ここでの心情を答えなさい。
12. 傍線〔⑩〕「わろく」の終止形と、ここでの意味を答えなさい。また、現代語の「悪い（わるい）」との意味の違いにも触れなさい。
13. 傍線〔⑪〕「ものつきたまへるか」を現代語訳しなさい。また、ここでの「もの」は具体的に何を指すか説明しなさい。
14. 傍線〔⑫〕「なんでふ」の意味として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。
- ア なんという（感嘆） イ どうして～か、いや～ない（反語） ウ なるほど エ たいへんな
15. 傍線〔⑬〕「あしく書きけるなり」の「なり」について、文法的意味（助動詞の種類）と終止形を答えなさい。また、「あしく」の終止形も答えなさい。
16. 傍線〔⑭〕「かうこそ燃えけれ」について、次の問いに答えなさい。
- (1) 「かう」をすべてひらがなの現代仮名遣いに直しなさい。
 - (2) この部分には係り結びが用いられている。係りの助詞と、それを受けて結びとなっている語を抜き出さない。
 - (3) なぜ文末が終止形「けり」ではなく「けれ」になっているのか、理由を説明しなさい。
17. 傍線〔⑮〕「あらむ」の「む」の文法的意味として最も適切なものを次から選びなさい。
- ア 意志 イ 推量 ウ 仮定・婉曲 エ 勧誘
18. 傍線〔⑯〕「書きたてまつら（ば）」の「たてまつら」について、敬語の種類（尊敬・謙譲・丁寧）と、誰に対する敬意かを答えなさい。

19. 傍線〔⑰〕「いできなん」を単語に分け、「な」「ん（む）」の助動詞の意味をそれぞれ答えたうえで、現代語訳しなさい。
20. 「わたうたちこそ、させる能もおはせねば、ものをも惜しみたまへ。」という良秀の言葉には、見舞いに来た人々に対するどのような気持ちが表れているか。簡潔に説明しなさい。
21. 傍線〔⑱〕「あざ笑ひてこそ立てりけれ」について、係り結びを成立させている係りの助詞を抜き出し、結びの語の活用形を答えなさい。
22. 傍線〔⑳〕「よぢり不動」とは何か。本文の内容をふまえて、現代語で説明しなさい。
23. 傍線〔㉑〕「おはせ（ね）」について、次の問いに答えなさい。
- (1) 「おはせ」の終止形（基本形）を答えなさい。
 - (2) 直後の「ね」は何の助動詞か、意味と終止形を答えなさい。
24. この話における良秀の人物像について、最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。
- ア 家族思いで、財産を何よりも大切にすゝ常識的な人物
 - イ 自分の絵の技術の向上のためなら、家族や財産の損失さえ気にしない芸術一筋の人物
 - ウ 火事に動転し、何を言っているのか自分でもわからなくなった人物
 - エ 世間の評判を気にして、悲しみを隠して笑ってみせた見えっぱりな人物